

からだのための命の経験、成長、務め

(金曜日——午前の第一の部)

メッセージ 1

神聖な命の交わりの中で生きる

聖書：Iヨハネ1:2-7, 9

I. わたしたちは神聖な命の交わりの垂直の面と水平の面へと入る必要があります：

- A. 交わりとは、すべての信者の内側にある永遠の命の流れです。彼らは、神聖な命をすでに受けて所有しています。これは新エルサレムにおける命の水の川の流れによって描写されます——啓22:1。
- B. Iヨハネ第1章2節から3節と6節から7節は、神聖な命の交わりに垂直の面と水平の面の両方があることを啓示しています：
 1. Iヨハネ第1章2節から3節は言います、「（この命が現れました。わたしたちはこの永遠の命を見たので、あなたがたに証しをし、また伝えています。この永遠の命は御父と共にいましたが、わたしたちに現れたのです）。わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも伝えます。それは、あなたがたもわたしたちと交わりを持つためです。わたしたちの交わりとは、御父との、また御子イエス・キリストとの交わりのことです」：
 - a. 交わりの垂直の面は、わたしたちと三一の神との交わりを指しています。交わりの水平の面は、わたしたちの互いの交わりを指しています。
 - b. 使徒たちの初めの経験は垂直のものでしたが、使徒たちが永遠の命を他の人に伝えたとき、彼らは神聖な交わりの水平の面を経験しました。
 2. 6節は言います、「もし、わたしたちが神と交わりを持っていると言いながら、暗やみの中を歩いているなら、わたしたちは偽っているのであって、真理を実行していません」。これは交わりの垂直の面です。
 3. 7節は言います、「しかし、神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩くなら、わたしたちは互いに交わりを持ち」。これは交わりの水平の面です。
- C. わたしたちは神聖な交わりの垂直の面と水平の面との間の関係を見る必要があります：
 1. もしあなたが主と正しい交わりを持っていないなら、あなたの信者仲間と交わりを持つことは難しいのです。同じように、もしあなたが信者仲間と正しい交わりを持っていないなら、主と交わりを持つことは難しいのです。この理由は、神聖な交わりが唯一の交わりであるからです——使徒2:42。
 2. わたしたちは実際的にこの交わりの中にいないとき、その霊の外におり、三一の神の外におり、神聖な命の外にいます——参照、IIコリント13:14. Iコリント1:9. ピリピ2:1。
 3. わたしたちはできるだけ多く、わたしたちの信者仲間と交わりを持とうとすべき

です。この神聖な交わりはわたしたちを矯正するだけではありません。それはまたわたしたちを型で作り、再構成させます。この交わりは神聖な構成要素をわたしたちの霊的な存在の中へともたらし、わたしたちの存在の中で変化を持たせます。

4. 交わりはまた、ある共通の目的のために、個人的な利益を捨て、他の人と結合することを示します。ですから、神聖な交わりの中で生きることは、神の定められた御旨を完成するために、わたしたちの個人的な利益をわきに置き、使徒たちまた三一の神と結合することです——使徒2:42. Iヨハネ1:3. Iコリント1:9. 3:6, 12。

D. 神聖な交わりは、キリストのからだの中で生きることの実際です：

1. 主がまだ戻って来ないのは（啓22:20）、信者たちが個人主義的で、単独で、意見があり、分裂しているからです。
2. 神聖な交わりの中に制限されることによってキリストのからだは、一の中に守られ、その務めの働きは継続して前進します。すべてのものを生かすのは交わりです——エペソ4:11-12. 参照、エゼキエル47:9。

E. 命の交わり、命の内なる流れは、喜びをもたらし、また命の光の内なる照らし、すなわち内なる支配をもたらします——Iヨハネ1:4-5. ヨハネ1:4. 8:12. 参照、IIコリント5:13。

II. わたしたちは二つの霊によって、神聖な交わりの二つの面へと入る必要があります：

A. わたしたちは神聖な霊、聖霊によって、神聖な交わりの垂直の面へと入る必要があります——IIコリント13:14. IIテモテ4:22：

1. その霊ご自身が交わりです。なぜなら、交わりはその霊の流れであるからです。これは、電流が電気そのものであると言うようなものです。電流は流れている電気です。
2. 同じように、IIコリント第13章14節で述べられている聖霊の交わりは、その霊の運行です。キリストの恵みはわたしたちが享受するキリストご自身であり、神の愛はわたしたちが味わう神ご自身であり、その霊の交わりはわたしたちの内側で運行するその霊ご自身です。

B. わたしたちは人の霊によって、神聖な交わりの水平の面へと入る必要があります——ピリピ2:1. 啓1:10：

1. わたしたちは互いに真の水平の交わりを持つようとするなら、わたしたちの霊を訓練する必要があります——Iテモテ4:7。
2. わたしたちは霊を訓練するなら、世俗的な方法で話したり、聖徒たちや召会について消極的に語ったり、他の人の間違いや失敗についてうわさ話をしたりすることは決してありません。わたしたちが霊を訓練するとき、わたしたちの会話の性質は変わります。なぜなら、わたしたちの霊は聖いからです——IIコリント6:6。

C. 水平の交わりは垂直の交わりに織り込まれます。この織り込まれた交わりが真の交わりです：

1. わたしたちは霊を訓練することによって互いに真に交わるとき、祈り、主と接触することを渴望します。これは、垂直と水平の面の交わりの中の関係が、いかに密接であるかを見せています。
2. わたしたちと聖徒たちとの水平の交わりは、わたしたちを主との垂直の交わりへともたらしめます。そしてわたしたちと主との垂直の交わりは、わたしたちを聖徒たちとの水平の交わりへともたらしめます。

D. 神聖な交わりはクリスチャン生活のすべてです：

1. 電流が電気そのものであるように、神聖な命の交わり、神聖な命の流れは、神聖な命そのものです。
2. わたしたちのクリスチャン生活は神聖な命の交わりの生活です。
3. 使徒たちは信者たちと交わりを持つことを願いました——これは水平の交わりです。そして使徒たちは、その交わりが三一の神との交わりであると説明しました——これは垂直の交わりです。
4. わたしたちは垂直に主と交わり合っており、同時に水平に互いに交わり合っているべきです。
5. 最後に、この神聖な交わりの中で、神はわたしたちと織り込まれます。このように織り込まれることは神と人とのミングリングです。
6. わたしたちは、交わりがないとき、神も消えることを認識しなければなりません。神は交わりとして来ます。

III. わたしたちの交わりは十字架を通して深められます：

- A. 全宇宙に、神とわたしたちとの間のすべての障害を取り除くただ一つのものがあります。それは十字架です。
- B. 詩歌533番6節は言います、「十字架の働きを通して、交わりはさらに深くなります。聖霊の運行を通して、交わりはさらに新しくされます」。その霊と十字架がなければ、わたしたちは真の交わりを持つことができません。
- C. 詩歌227番の第一句は言います、「後にあるのは塗り油であり、先にあるのは血です」：
 1. 血は十字架の有力なしるしであり、塗り油はすべてを含む、複合の霊の予表です。
 2. この二つの要素はレビ第14章6節から10節と14節から18節で述べられています。御言のこの箇所では、汚れた罪人を表徴するらい病の人が、まず血によって清められ、次に血の基礎の上に油、塗り油が塗られることが告げられています：
 - a. 血と塗り油は、らい病の人の右の耳たぶ、右手の親指、右足の親指に塗られます。耳はわたしたちが神の言葉を聞くことを表徴し、手はわたしたちが神の事柄を行なうことを表徴し、足はわたしたちが神の道を歩むことを表徴します。
 - b. 霊的に言って、らい病は間違っただけで聞くこと、間違っただけで働くこと、間違っただけで歩むことから成っています。わたしたちはらい病の人であるので、まずキリストの贖う血によって清められる必要があります、次に血の上に塗る油を必要とします。
 - c. 最終的に、わたしたちの清めは、キリストの清める血に基づいたその霊の神聖

な交わりによります。

- D. 神聖な交わりは、三一の神をわたしたち、三部分から成る人の中へと分与して、わたしたちと神を一にすることです。「交わり」のギリシャ語の言葉は「共にあずかること」を意味し、この共にあずかることは一を生み出します：
1. 実は、交わりとは一です。神がわたしたちと交わっているとき、そしてわたしたちが神と交わっているとき、それが神とわたしたちを一にします。
 2. 全宇宙に大きな一があり、この大きな一が神聖な交わりです。
 3. 主が願っているのは、父、子、霊が一であるように、わたしたちをすべて一にすることです。ヨハネ第17章で主は祈りました、「それは、わたしたちが一であるように、彼らも一となるためです」（22節後半）。召会の一は神聖な三一の神聖な一の一部です（21節前半）。
 4. 最終的に、召会と神聖な三一は交わりの中で一です——14:21, 23。
- E. わたしたちは十字架を経験して、徹底的に神聖な交わりの中にいなければなりません：
1. わたしたちの内側に他の兄弟に対する障害があるので、わたしたちと彼との交わりはそれほど徹底的ではありません。わたしたちは神聖な交わりに対する内側の障害のゆえに、ある聖徒たちと接触するのを避けるかもしれません。
 2. わたしたちの交わりが徹底的でなく、障害が内側に残っているのは、わたしたちが経験の中で十字架を持っていないからです——ガラテヤ2:20前半。
 3. 詩歌464番は、「死ぬことがなければ、生きることはありません」と言います。これが意味するのは、「十字架がなければ、キリストはありません」。さらに、「キリストがなければ、その霊はありません。その霊がなければ、交わりはありません」。
 4. マタイ第16章24節で主は言われました、「だれでもわたしについて来たいなら、自分を否み、自分の十字架を負い、わたしに従って来なさい」。主は「自分の十字架」という言葉を用いて、わたしたち各自に特別な分の十字架があり、それはわたしたち各自が断ち切られるためであることを示しました。
 5. 実は、十字架を負うとは自己を否み、自己を死に渡し、絶えずキリストの十字架を自己に適用することです。
 6. わたしたちは水平の交わりを持つために、自分自身を否む必要があります。自分自身を否むとは、自分自身について感覚がないことを意味します。その時、わたしたちは決して怒ることができません。
 1. わたしたちは十字架を経験して、神聖な交わりに対するわたしたちの経験を深める必要があります——参照、Iヨハネ1:9。

務めからの抜粋：

聖霊による神聖な交わりの垂直の面

神聖な交わりには二つの面があります。それは神とわたしたちとの間の垂直の面と、信

者たちの間の水平の面です。神聖な交わりの水平の面は、人の霊によります。神聖な交わりの垂直の面は、神聖な霊、すなわち聖霊によります（Ⅱコリント13:14、Ⅱテモテ4:22）。「よる」という言葉は、実はわたしたちが意味していることを表現するのに十分に強くありません。その霊は単に交わりと関係があり、包み込まれ、調和しているだけではありません。その霊ご自身が交わりです。なぜなら、交わりはその霊の流れ、水流であるからです。これは、電流が電気そのものであると言うようなものです。電流は流動する電気です。電気が停止すると、電流も停止します。同じように、コリント人への第二の手紙第13章14節で述べられている聖霊の交わりは、その霊の運行です。キリストの恵みは、わたしたちが享受するキリストご自身です。神の愛は、わたしたちが味わう神ご自身です。その霊の交わりは、わたしたちの内側で運行するその霊ご自身です。神聖な交わりは聖霊ご自身です。

神聖な霊がなければ、交わりはありません。その霊は交わりの要素です。台が木で造られているとき、木はその台の要素です。同じように、もし台が金属で造られているなら、金属がその台の要素です。もしあなたがその要素を取り去るなら、その台は存在しなくなります。神聖な交わりについても同じです。もしあなたがその霊を取り去るなら、神聖な交わりは消え去ります。

人の霊による神聖な交わりの水平の面

わたしたちは人の霊によって、神聖な交わりの水平の面へと入る必要があります（ピリピ2:1、啓1:10）。わたしたちは互いに真の水平の交わりを持つようとするなら、わたしたちの霊を訓練する必要があります。わたしたちは霊を訓練するなら、世俗的な方法で話し、聖徒たちや召会について消極的に語ることは決してしません。もしある地方の多くの聖徒たちが、他の聖徒たちや他の召会についての消極的な事柄を、時間を費やして語るなら、その地方の召会はひどい打撃を受ける可能性があります。そのような談話はうわさ話や死を聖徒たちの間に広めます。聖徒たちの間のこのような接触は、パウロがピリピ人への手紙第2章で語った霊の交わりではありません。ピリピ人への手紙第2章1節から2節でパウロは言いました、「こういうわけで、もしキリストにあっていくらかでも励まし、もしいくらかでも愛の慰め、もしいくらかでも霊の交わり、もしいくらかでも情け深さと同情があるなら、どうか……わたしの喜びが満ちるようにしてください」。パウロはこう言っていたかのようです、「兄弟たち、もしあなたがたに霊の中でわたしといくらかでも交わりがあるなら、あなたがたの交わりはわたしの励ましと慰めになります。そしてあなたがたは、わたしの喜びが満ちるようにします」。

真の交わりはわたしたちの霊によります。わたしたちは霊を活用するとき、この世の享楽や娯楽について話すことができません。わたしたちが霊を訓練するとき、わたしたちの会話の性質は変わります。なぜなら、わたしたちの霊は聖いからです（Ⅱコリント6:6）。もしある召会に問題があるなら、わたしたちは願いを持ってただその状況について話しますが、わたしたちの霊は内側でわたしたちに祈るように促します。わたしたちの霊は、他の人の間違いや失敗についてうわさ話をするのを許しません。水平の交わりの実際を持

つ唯一の道は、わたしたちの霊を訓練することによります。

神聖な交わりの二つの面は、わたしたちが二つの霊の中に、すなわち聖霊と人の霊の中にいることを要求します。この二つの霊は最後に一になります（ローマ8:16. I コリント6:17）。パウロはわたしたちに、ローマ人への手紙第8章4節で霊にしたがって歩くように命じるとき、ミングリングされた霊、すなわち神聖な霊がわたしたちの人の霊とミングリングされることについて語っています。わたしたちは霊を訓練して神聖な交わりを遂行するとき、完全に聖別され、キリスト以外のあらゆるものから救い出され、救われます。わたしたちは打ち勝ち、勝利を得て、聖別され、造り変えられるために、霊を訓練して、神聖な交わりの二つの面を実行しなければなりません。

織り込まれた交わりは、垂直と水平の面を包括する

神聖な交わりの垂直と水平の面には、とても密接な関係があります。わたしたちは経験からこれを見ることが出来ます。時には、わたしたちは他の聖徒たちについて、彼らの状況について交わりを持っているように話しますが、わたしたちの会話は実ほうわき話です。その後、わたしたちはしばしば祈ることができません。なぜならわたしたちの祈る霊が、うわき話によって消されているからです。しかし、わたしたちは霊を訓練することによって真に交わるとき、祈って主と接触することを渴望します。これは、垂直と水平の面の交わりの中の関係が、いかに密接であるかを見せています。水平の交わりは、わたしたちを垂直の交わりへともたらしめます。二人の兄弟が霊を訓練して真実な、正しい、水平の交わりを持つなら、最後には誠実で真摯なとりなしへともたせられます。彼らが共に祈るとき、神聖な交わりの二つの面が織り込まれます。水平の交わりは垂直の交わりと共に織り込まれます。この織り込まれた交わりが真の交わりです。

交わりはただ一つの面だけを持つことはできません。あなたは水平の交わりなしに、垂直の交わりを持つことはできません。あなたが垂直の交わりの中で主とのすばらしい時間を持つなら、他の聖徒たちを見て、彼らと交わりを持つことを渴望します。いったんあなたが祈りを通して聖徒たちと交わりを持つなら、再び主との垂直の交わりへともたせられます。あなたと聖徒たちとの水平の交わりは、あなたを主との垂直の交わりへともたせられます。そしてあなたと主との垂直の交わりは、あなたを聖徒たちとの水平の交わりへともたせられます。こうして、この二つの面は常に織り込まれます。すなわち、それらは常に互いに交錯して進行します。

わたしたちは神聖な交わりとその二つの面の正しい見方を持つとき、機会を持って他の聖徒たちと交わることを主に感謝するでしょう。毎日わたしたちは主と交わるとき、他の聖徒たちとの交わりへともたせられます。わたしたちはこのような交わりを持って持つほど、ますます共に歌い、主を賛美するでしょう。わたしたちの間にあまり多くの歌や賛美がないのは、わたしたちが神聖な交わりに欠けるからです。

神聖な交わりはクリスチャン生活のすべてである

電流が電気そのものであるように、神聖な命の交わり、神聖な命の流通は、神聖な命そ

のものです。わたしたちは、電器製品は「電気の命」、電流の命を生きると言うことができます。同じように、わたしたちのクリスチャン生活は神聖な命の交わりの生活です。新約は、クリスチャンの集会、クリスチャンの結婚生活、クリスチャンの働きが、神聖な交わりであることを啓示しています。神聖な交わりはクリスチャン生活のすべてです。使徒行伝第2章で救われた人たちは、使徒たちの交わりへともたらされ、それを堅く持ち続けました(42節)。後ほど新約で、神聖な交わりは御父との、また御子イエス・キリストとの交わり(Ⅰヨハネ1:3)、聖霊の交わり(Ⅱコリント13:14)、霊の交わり(ピリピ2:1)と呼ばれています。

ヨハネの第一の手紙で、彼は神聖な交わりについて語っています。ヨハネの第一の手紙第1章2節から3節は言います、「(この命が現れました。わたしたちはこの永遠の命を見たので、あなたがたに証しをし、また伝えています。この永遠の命は御父と共にいましたが、わたしたちに現れたのです)。わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも伝えます。それは、あなたがたもわたしたちと交わりを持つためです。わたしたちの交わりとは、御父との、また御子イエス・キリストとの交わりのことです」。使徒たちは信者たちと交わりを持つことを願いました。これは水平の交わりです。そして使徒たちは、彼らの交わりが三一の神との交わりであると説明しました。これは垂直の交わりです。垂直の交わりは、わたしたちを水平の交わりへともたらします。そして水平の交わりは、わたしたちをさらに大きな範囲で垂直の交わりへともたらします。このさらに大きな範囲の交わりは集会です。

今日、わたしたちは集会し奉仕する新しい道、神の定められた道を強調します。わたしたちは、新しい道が現在持っているのとは異なる集会を生み出すことを認識しなければなりません。新しい道にしたがった集会の中で、あらゆる人はキリストの享受に満ちており、神聖な交わりの垂直と水平の面にあずかっています。集会そのものが交わりとなります。しかしながら、今日、わたしたちの集会はこのようではありません。それは、わたしたちが正常な集会について見てきたビジョンの標準に達していません。

集会におけるすべての機能は、神聖な交わりの表現であるべきです。預言することはこの交わりの表現です。証しすることもこの交わりの一部分です。主の食卓で聖徒たちに聖書からの一節を読むことも、この交わりの小さな部分となるかもしれません。わたしたちは垂直に主と交わり合っており、同時に水平に互いに交わり合っているべきです。

最後に、この神聖な交わりの中で、神はわたしたちと共に織り込まれます。この織り込みは神と人とのミングリングです。すべての集会は、垂直と水平の面を持つ織り込まれた交わりであるべきです。わたしたちの結婚生活も織り込まれた交わりであるべきです。夫と妻は互いに織り込まれるだけでなく、主とも織り込まれるべきです。真のクリスチャンの結婚は神聖な交わりであるべきです。わたしたちの組み合わせと共に働くことも、神聖な交わりであるべきです。

わたしたちは、交わりがないとき、神も消えることを認識しなければなりません。神は交わりとして来ます。今日、わたしたちの集会、わたしたちの結婚生活、同労者たちとの間の組み合わせ、諸地方召会の間の交わりは不正常です。なぜなら、わたしたちはこの交わり

りに欠けているからです。今日、諸地方召会の中に十分な交わりがなく、諸召会は交わりの中で完全に一ではありません。

神聖な交わりはクリスチャン生活のすべてです。使徒パウロはこの交わりの中で生きました。わたしたちが神聖な交わりの中で生きるとき、わたしたちのクリスチャン生活はとても活発で、活動的で、衝撃力に満ちるようになります。わたしたちは二つの霊によって、神聖な交わりの二つの面の経験へと完全に入る必要があります。（三一の神が三部分から成る人に命となる、第15章）